

## 私の気に入りの通学路、明神川

野口 涼加

(2020 年度入学 4 期生)

### 明神川とは

上賀茂神社から東へ進むと、西側の御園橋の商店街や学生で賑わった雰囲気とは一変し、古風な街並みを見ることができる。この街並みは「社家町」と呼ばれ、今や全国的にも貴重な地区とされ、1988 年にはここが「上賀茂伝統的建造物群保存地区」、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている。そのすぐ側を流れているのが今回紹介する「明神川」(みょうじんかわ)である。社家町と明神川がおりなす四季折々の姿はなんとも美しく風情満点である。



私はここ、明神川を目の前にして育った。小学生の頃から、毎日この川沿いを歩いて登校していた。段々と暖かくなり始めた春にはカモがゆらゆらと泳いでいる姿が見られる。夏の暑い日には川の中に入ったり、地蔵盆では、「灯籠流し」が行われる。冬は雪が社家町や藤ノ木社に降り積もる光景に奥深さを感じられる。特に後者の古木には心が奪われる。この樹齢 500 年とされるクスノキは明神川の守護神として古くから信仰されており、その立派な佇まいは明神川とこの地域を見守ってくれているように思える。私はこのような、四季折々で表情を変える街並みとこの川とともに育ってきたからこそ、この魅力を多くの人に知ってもらいたい。そんな思いで明神川を選んだ。

### 名称と百人一首

明神川は短い距離の間で、次々に名称を変える。まず、賀茂川の志久呂橋(しくろはし)下流から水を取り入れ、上賀茂神社の境内に入ると「御手洗川」(みたらしがわ)と呼ばれる。御手洗川は禊にも使われた神聖な川である。そして東側から流れ込む「御

物忌川」(おものいがわ)と合流し、「ならの小川」となり境内を流れる。そのせせらぎは境内を出てさらに名称を変え「明神川」となり、上賀茂の社家町を流れてゆく。また、この「ならの小川」は「小倉百人一首」にも詠まれている。

「風そよぐ ならの小川の 夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける」

藤原家隆 (1158-1237)

この和歌は「風がならの葉に吹いて、そよそよと音を立てている。ならの小川の夕暮れは、秋のように涼しいけれど、みそぎが行われているのは、夏のしるしだなあ」といった意味がある。これを知ったのは、小学生の頃に学校で行われた地域の方の講演だった。それほど上賀茂で知らない人はいないほど地域に馴染みが深い歌である。これらのことから、明神川は、平安の昔から人々の暮らしの中にあつたことが知れる。



## 明神川の歴史

明神川は全長 4.5km あり、今から 1400 年以上前に上賀茂地域に移住してきた賀茂族が鴨川の水を上賀茂へ引いて開拓したとされる。かつて、この明神川の水は上賀茂の人々にとって、神聖な水であると同時にかけがえのない生活用水であり、すぐきをはじめとする農業用水としてなくてはならない存在であった。明神川の水は石垣の下の取水口から社家の内部に取り込まれ、二分される場合が多い。一つは庭園池水となり、下流側で再び池から川へ戻される。邸内で分流したもう一つは、家の裏側へ引き込まれ、野菜や米を洗ったり洗濯に用いられ、やがて家々の裏側を流れる小川へと流れ込む。洗濯などで汚れた水はそのまま川に戻されるのではなく、「スイモン」あるいは「スイコミ」と呼ばれる庭の一角に掘られた直径 60cm 深さ 50cm ほどの穴に捨てられる。上賀茂では不思議なほど早く水が地中に吸われるという特性を持っていたので、この仕掛けを利用して川の水は清らかなままで下流へと流れ、洗面に使用できるほどの綺麗さを保っていた。しかし昭和 40 年代初期、これらの水の汚れが目立ち始めた。新しい住宅が建てられ始め、「スイモン」が設けられなくなったことが理由の一つである。この汚れにより明神川から水を引き込んでいる池で鯉が相次いで死んだこともあった。この頃は高度経済成長期で、京都でも各地で建設・開発が行われたり、洗剤の変化などによって水質の悪化を引き起こしていたのである。



こうした水質の悪化を受けて「明神川美化保存会」が昭和 44 年に発足した。明神川の両側に住む人々が、平安から長い歴史を持つ川を私たちの手で守っていこうという思いで結成された。上流の柵野地域や上賀茂地域の公共下水道の整備などによって、明神川の水質汚濁は飛躍的に減少し、やがて昭和初期の 6~7 割程度のきれいさに戻った。このような取り組みがあったから、今でも綺麗な明神川が保たれ、人々に愛される景観があるのだと思う。

#### 【気づき】

私は、明神川が上賀茂の人々の生活とともにあり続けてきたことを知ることができた。そして上賀茂住民として、四季折々で表情を変えながらも変わらず在り続けてくれるこの川の魅力について後世に受け継いでいきたいと思った。またこの通りを歩くと、明神川だけでなく上賀茂神社、社家町、藤ノ木社など、1つ1つが独立しているのではなく、全てが互いに関わり合っていることが感じられるだろう。皆さんもこの川を一度訪れてみてはいかがだろうか。



#### 【参考】

- ・NHK「京都・鴨川～川をたどれば京都がわかる！？～」2022. 6. 18 放送
- ・京都市都市計画局「上賀茂 街並み調査報告」
- ・小倉山荘, 「ちょっと差がつく『百人一首講座』」, 2002. 8. 20 配信  
<https://ogurasansou.jp.net/columns/hyakunin/2017/10/17/1409/>